みなと MOTOMACHI ケンチクさんぽ vol.28

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会　地域まちづくり委員会

神戸ポートタワーのリニューアルオープンにむけて

改修工事中のポートタワーも、いよいよ仮囲いが外される段階になり、来春のリニューアルオープンが近づいてきました。

今年1月のこのページの拙稿でもご紹介しましたが、神戸松蔭女子学院大学の私のゼミでは、「一葉双曲面」という独特の造形美を持つ神戸ポートタワーの魅力を発信し、リニューアルオープンを盛り上げ、地域活性化につなげることを目標に、2021年度から学生たちと「神戸ポートタワー60th・デザイン活用プロジェクト」に取り組んできました。

優れた造形性を身近なデザインに活用する様々な提案作品を制作したり、「KOBEポートタワー・FANTASY」という幻想的な空間演出作品を制作し、松蔭祭で展示したりといった取り組みです。今回はその後の活動状況について、ご報告したいと思います。

まずこのページを連載中のJIA（公益法人日本建築家協会）近畿支部兵庫地域会の地域まちづくり活動の一環として、神戸松蔭と連携して、このプロジェクトの学生作品展示と「ミニポートタワーを作ろう！」という、子どもも大人も楽しめるワークショップを合わせたイベントの企画を進め、実施しました。

最初のイベントは、今年２月23日の祝日に、デザインクリエイティブセンター神戸のKIITO:300というスペースを提供していただき、またポートタワーの管理者である神戸市港湾局の後援もいただいて実施しました。

竹ひごを組み合わせてカラフルなミニポートタワーを作るワークショップでは、子どもたちから大人、高齢者までの多くの方にものづくりを楽しんでいただき、JIA兵庫地域会のメンバーに加え、学生たちもサポーターとして参加して、とても有意義なイベントとなりました。作品展示については松蔭祭での展示内容に加え、神戸市港湾局等から提供されたポートタワーの変遷をたどる画像資料をスライドショーにまとめて展示。より充実した内容を見ていただくことができました。

次には、5月25日(木)から28日(日)までの４日間にわたり、ハウジング・デザインセンター(HDC)神戸をメイン会場として、オンラインも併用で開催された「WIWもの・空間学生デザイン展」に、神戸松蔭からこのプロジェクトの一連の学生作品を出展しました。

これは例年５月最終週に"World Interior Week"として、世界各地でインテリア関連のイベントが行われ、それに連動して日本インテリアデザイナー協会他、関連６団体からなるUSD-O（大阪デザイン団体連合）が開催しているもので、今年は全国から８校の大学や専門学校が参加しました。

神戸松蔭の作品展示は、アトリウムのオープンな空間でも、存在感のあるものとなり、また２名の学生が代表でプレゼンテーションを行い、このプロジェクトについて、詳しく説明しました。そしてインテリアデザイナーやプロダクトデザイナーなど５名の専門家による講評と厳正な審査が行われ、大変光栄なことに、私たちが最優秀賞に選ばれました。

そして、この受賞を記念して、学長から贈呈された材料を使って、ミニポートタワーの新作「クリスタルタワー」を制作しました。

さらに7月15日(土)から17日(月)までの３日間、六甲アイランドの神戸ファッションマートで開催された、大丸インテリア館ミュゼエール「家具大蔵ざらえ」にて、神戸松蔭女子大学としてブース出展の機会を提供していただき、その中で新作を含むこのポートタワープロジェクトの一連の学生作品を展示。また最終日には、第２回「ミニポートタワーを作ろう」ワークショップをJIA兵庫地域会と共催し、多くの方に楽しんでいただきました。

8月5日(土)には再びKIITO:300にて、作品展示とワークショップを実施し、その様子は、読売新聞にも記事として掲載されました。

そして、みなと元町タウン協議会８月定例会でも、活動報告の機会をいただきました。

こういったポートタワーに関する作品制作や展示、ワークショップなどで、何か地域のみなさんと連携して、お役に立てる機会がありましたら、お声がけいただければ幸いです。

KIITOでのワークショップ

「WIWもの・空間学生デザイン展」の展示

新作クリスタルタワー

ミニポートタワー作りを楽しむ親子連れ

ウォーターフロントへの期待

神戸松蔭の私のゼミは、インテリアを専門とし、「身近な空間のよりよいあり方を考える」ことを共通テーマに作品制作を行っています。卒業研究では、学生たち各自が「あったらいいな」と思う空間を具体的な場所をリサーチして設定し計画案を図面やパースにまとめて表現します。

みなと元町周辺では、乙仲通界隈やウォーターフロントの一部をテーマにした学生がこれまでに何人もいました。乙仲通界隈での様々な作品提案については、以前のこのページの連載「乙仲通界隈の魅力と可能性」などでもご紹介しましたので、今回は学生たちが自由な発想で考えた、ウォーターフロントでの計画案を、ほんの少しですが、ご紹介したいと思います。

昨年、メリケンパークの一部に「インクルーシブパーク」を計画した学生がいました。障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に遊べる公園は、東京では整備が進んでいますが、神戸近辺ではまだ事例がわずかです。船や海の生き物をモチーフに大小の遊具を配した計画は、子どもたちが喜びそうな生き生きした空間となりました。

また現在、同じメリケンパーク内で、館内や屋上で食事をしながら映画を楽しめる近未来的な「新感覚シアター」を計画中の学生もいます。

数年前、豪華客船で神戸港にきた外国人から近辺で和食を楽しめる場所を訊かれたのをきっかけに、煉瓦倉庫をリノベーションし、神戸らしい和食レストランを提案した学生もいました。

また爬虫類が大好きで、アートと融合した魅力的な爬虫類館をウォーターフロントの新たなスポットにしたいと考え、空間提案にまとめた学生もいました。アトアの計画発表前でしたが、彼女が自ら設定した計画場所には、その後アトアが建ちました。水族館と爬虫類館の違いはあれ、構想は、的を得ていたのだと思います。

ポートタワーと共に、ウォーターフロントの今後に、学生たちも私も、大いに期待しています。

米原 慶子　（よねはら けいこ）
神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 ファッション・ハウジングデザイン学科 准教授／Ks Architects　夙川アトリエ主宰／住宅・建築・インテリアなど、空間デザインを専門として教育に携わる